

百人一首和歌始末抄

分三寸四	コ	ヨ	紙	表
分一寸六	テ	ク		
分五寸三	コ	ヨ	粹文木	
分九寸四	テ	ク		

百人一首和歌始衣抄自叙
 昔周昭王以翠鳳之毛為二裘
 一曰燠質二曰暄肌矣。今也松
 系館深孔崔為衣裳曰之跡著
 曰始衣裳也。通之衣裳以八丈
 為袖藏衣裳以木綿為錦也。
 如其以錦為木綿以八丈為袖
 不人一對既衣抄而為百文

二朱通用物而已

天明七年丁未孟陬
楓葉山東隱士京傳老人識



まうーもひてく。やまのやうな
 祇つろのやうな。さきよのうな
 あひよのやうな。いぬのやうな
 まみちのやうな。はのほの浦^{うら}な
 かゝる。もゝあなな。先^{さき}たら。在中^{ちゅうちゅう}おき
 舟のさな。多^{おほ}く。うり。ぬれを。と。や
 小^こは。や。き。あ。や。う。ぬ。ら。な
 まう。今^{いま}も。お。き。う。な。な。な。な。

うぬ。あつひからよほしきあまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。
あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ。

へききくつ屋の。玉濃もくくくくくく
 も。ほくくくくくくくくくくくくくく
 こくくくくくくくくくくくくくく
 へきききききききききききききき
 屋の。まきききききききききききき
 りたききききききききききききき
 源 傳



政演画



○ 天智天皇詩製一首

○ 持統天皇書所製一首

○ 柿本人麿一首

○ 山邊赤人一首

○ 猿凡大夫一首

テミ至ル モツテカキヲ ヤマ サル
天 持 柿 山 猿
ハニジ物

右ハ口決ノ大ニナレバ茲ニ註ヲ
チウ

モラス

中納言家持 ちゅうなごん やくり

天武壬子日本記作者

家人親王 いんぎん

又作舍人 いへひと

家田屋太右衛門尉 いゑぶ やさ とも へん の とう

新吉原娼家

家橘 けさつ 市村羽左衛門

家暮 やが 坂東三八

家持 やくり 一説ニ 此人リシキカクネソノクセニ紋所ハ
通ナモシニニ通ナ紋ヤキ持ト号ス

橘井の
ちき
にッ谷
く
と
も
や
人の
る

天經或問
曰

九星失光而南

方之落分野

九星トハ九ヨウノホシト各
ノ所ニヤ。金ノ光リヲウシ
ツテ南方ヘアソビニ行ク

傘カサコト

史記註
曰

笠有柄者

謂傘

鷺
一名雪客

かゝるものにてせる様にと云ふ

孝子と云ふれど病を承け母は

川崎のあさ橋のどくちとふかやねの

مفتی محمد رفیع

かぐさこの〇なく、カ常六月天五のまづ

Two Thousand Sixty Five

かたれどりのみちを歩く傘持者のことである

にせむ。○たゞいふはめのもよむいふをむくのふむ

よつとあつちのちやうど

6/15/2006 12:56 PM

ಅನುಪಮಾಚಾರ್ಯ

元三大師御蘭之記

二

十 楊柳遇春時 ハツ山のまのりとき

三 牛放桃林南 牛ハる梅の南まの

大 重々雪相雪裡 やうもあふ

吉 黄金色更輝 のきほの

川柳集

柳樽 三編 二日

「けつあつてかいふ
承のさやうへい」

「とてゝわがまゐも
ふのいもころもあつ
あふへい」

目下格の白木かやまひとてたがひはてをせり
あひいゆへにせるとよあり

「格」よとておの○格のよくあもとよあへ
あふとおふれのをたとふて入り

「あ」ろとてそれと○ひとりのりの有るやと
り目下格の白木かやまひとてたがひはてをせり
よのにせまひとてねてあまひいゆへに

「あ」ろとてそれと○とてかやまひとてり
あまひとてあふれとてあふれとてあふれとて
あまひとてあふれとてあふれとてあふれとて

禁秘抄卷下

禁秘抄卷下

白氏文集ニ曰

誰言南國

無霜雪

○南國トハ品川ノコトヲ

イフタモノシヤ

霜トハシク霜カ

コトタイフジ

雪トハ綿ノコトシヤ

白木屋引札ニ曰

大室賣仕

大室賣仕

東鑑 五十二卷ニ曰

被行泰山府君百怪

白鷺等祭云々

今柳々々云々云々娘の

毛詩ニ曰

振鷺二王之後來助

祭也

○振鷺トハ振袖ノムスノカ鷺娘ヲ云

トルコトデアルニ王トハ妙國寺ノニ王ノ

コトゾ助祭トハ天王サマノ祭シヤ

一説

字依の系つもの
せがれありと云ふ
今一ぶく一せんの
うけあんどらうにとり
名のとり

喜撰法師 きせんぼうし

四十七騎人

喜太八 竹森

喜三太 御廐

喜三三 画双紙

喜三郎 作者 小野川

喜四郎 吉原 越前 屋

喜六 佐川田

喜長 沢村長十郎

喜瀬川 大磯 遊女

喜撰

喜代三 若女形

我いはいみやこのなみくらなみくら
よなうち山と人いといふあり

赤石^{あかし}頂^す廣^は法^は帝^{てい}よりみ深^{ふか}川のげん

やとあひてあひてあひてあひてあひて

りりやい○あれがあどあむらとあ仲町の

げんやん

みやこの○りりやいりりやいりりやい

あつてあつてあつて今み深川のよびげん
あつてあ

りりこの深川と辰巳といふは深川のあつてあ
あつてあ

あつてあすむ○これいあつてあつてあつてあ

あつてあすむ○これいあつてあつてあつてあ

人あり

列子ニ曰

以德分人謂之

聖人

以財分人謂之

通人

白虎通卷三曰

聖人者何聖者

通也

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

人あり

そのちかのかつわの山の
ふかきうに女ますと
教と名とくをるより
今たふすあてこれと
んぐふ

八雲抄

そのわいのづめの
まゝくがはなつ
まゝのまゝ

とあつひにまを教
さるかと
まゝのまゝ

蒙求 孝伯傳

先規 見曰此

眞深川 仲

人也

琴曲抄

須磨曲日

そのふといふもうらの名
ありといふもうらの名

は大人物といふまゝあまふ
まゝといふまゝありといふまゝ
まゝあり

年代車室記

守やぞんとおき

そのせいで寅をいこころ
外なりんとて辰にかなんと
とあれを

そのふてのひやうとと
不言ともいふ

長哥鷺娘日

そのふのうらべていふなりも下畧

これなりとてうらの時とふ
とふまゝなりとていふ

陽成院やうぜいゐん

楊柳觀世音やうりゅうくわんぜいおん

佛像圖彙

楊貴妃やうきき

事見

長恨哥

楊妃外傳

楊枝屋阿幾やうしやあいく

浅草寺内

事見

積面艸サシモノクサ

楊名介やうめいのすけ

源氏夕魚卷
三ヶノ口決

楊香やうかう

二十四孝詩
追虎馳父オウチキチ

陽成院

はくくいの

後拾遺集序

はくくいのつらくと
白糸の思ひこころ

下思名

河東松之内

のこよりつらふくいの
ささかきまり

同書

こいそはかりてらの
あふ

あふよりあふ

近江京司

堅田藩

あふあふこころこころ
まづちかきかきあひさ
あふさ

武部源藏門人

湊緑文庫

はくくいのあふすりあつこころの川

あふそはかりてあふとあふあふ

あふあふのあからいよ藤あふとあふ

のあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

はくくいの〇はくあふあふあふあふあふあふ

のあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

名頭太字 二日

峯。定鶴。龜

松竹

画本半堂治川

猿人狂哥

いりとりはなんす

あさひありき

莊子 二日

鶴 不 日 浴 白

おつた一日ゆあき

男玄代八卦

十二人くらやうの

やうあひの母

き地のまが千代

あるさとのり

おやーはなのやなうく

りとのかつぐ

とりあげて

あーやーととり

は

つが

いぞつ

やふと

とりて

がほり

あつと

あつと

あつと

和漢朗詠集

鶴^{カキキツリ}歸^ニ舊里^ニ

ふるかふりさととて
ふるさとふりさととて
うづれりてのわが
なみち

相鶴經^ニ曰^{ハク}

鶴^{カキ}陽鳥也^ニ

因^ニ金^ニ氣^ニ

あつたうくし
そこのあまき

花扇書得乳石碑銘

名月やここの

五所とすのち山

五所

やうやれをものあまうとて縁をう

みす人あらうとされたるをあらと

ありわたるとやあり

兒女唱^ニ唄^ニ曰^{ハク}

あつたうくし
ふるさとふりさととて
うづれりてのわが
なみち

江戸砂子

こんらんはふりこのつや
うづれりてのわが
なみち

東海道中歌ハ^ニ曰^{ハク}

あまのうみ
うみ川のなみちとアリ
「はちつうのぐねぬ中あまう」

ありつゝありひらありん
在原葉平朝臣

本院左大臣

時平
いさひら
へい

基經男

金平
きんひら

坂田

川越平
かへこえひら

川越産

實平
さつひら

フイツハ人ノ名デハナカツタ
ハカマニスルモノダラキヤアガレ

兼平
かみひら

土肥三郎

仕ニ鎌倉殿ニ

大平
おほひら

今井四郎

仕ニ本曾殿ニ

業平
なりひら

ミツホコト云

ヌコイツモバシル
ワセゲ

業平

道外百人首

あり平のふ

ちやうどくちやうど

下略

毒虫去ル

中日乙子

ਸਿੰਘ ਸਾਹਿਬ

ちもやう神代もさうん新田川
わうこれあなううふとい

けふのやうな人あらんぞとあ
まふちとなにに傳へるや

らゝやめり。○らゝやとふかたわりなるが
める角力取とのあぶをわけておとしびん
はきよへてさへてつるらせのりて木の
角力とりとそのかはしへてかりたる

神代もさういふ。○の角力と云はちをやは
あまのこゝろにひくらぬてあまの

新田川

古今和歌集序

秋のあけ新田川は

あけくわちちハ

こかとのあけちちハ

かーととんまひ

嵐雪玄全集

まよひと

秋のあけ

かーと

いりとかの秋代とよとてひてそれ

ど秋代もさういねあう

新田川○の角力とりの名を新田川とよ

その後角力とりをやてさうあやとら

やとせよとらーら

かううれあふすのちやいあふすうとやと

かりて年あけのあふすもせよとら

とあふすもあつてのあふすもせよとら

房とありさあふすもせよとら

房とありさあふすもせよとら

あふすもせよとら

あふすもせよとら

うらぬれあゐ

當流小話

山姥曰

柳ハミどり花ハ
られあゐ

「あゝ」

てすり貝ニ曰

いこぬをゆめくあゝ
とてからと川へ身を
あけて水へつむくまは
うさうさうさうさの
うへんと云ふ

のらぬまゆーだつて川へびくのいぢ

がゐるやわらととれぬとふとからこれ

あゝいふやう

あゝうららやゐふせんうゐてゑあん

よりいづつと身とふけんとからと川へ

身をあげらるとふとあゝうとより

とは〇とはト、うらやがさかゑあり

伊達競阿国戯場

けあのんとつなれり

角力とりとまぬ川へお田川とふ名のふん
よりてちとやとまぬよりとつとつあやと
ふんせんきとつとふとよりとつかとわの
代とつとふはやつとまぬと入水のてふので
あゝあゝとふけあゝのさなと

伊勢いせ

伊勢平氏嫡流

豊竹伊勢太夫門弟ササ子

伊勢喜

アタ名ヲトウナスト云

伊勢三郎

義經ノ臣

四天王ノ人

伊勢四郎

御藏前

伊勢

竹村氏

吉原佳葉子屋

伊勢

あめはる

三佐百記ニ云

いりあちち。はるめち
あー。ううのりもあさ
はるのりもあーもあさ

伊勢昔ニ曰

古書云 とうちささる
てうちささるひくちあ
ん多り見 公事根源

こー かさめーの

廿子 曰

鳥 脛 雖 短
カキ 脛 イタ ミカニト

續之則憂

うはるんく

あー へこーが
てへあがー

あめはるさみーかさめーれがーのまも
何そてこのまもささるてまもや

浮世如 齒 たるかんをよるまも
ふやへゆりのこと

あめはるさみー 〇名は 齒 固とさるいへるのま

ふやとさる人のまもささるまもささる

齒のまもささるひとささるまもささる

こーかさめーの 〇鳥のめーのささるまもささる

とさる人のひのちちささるまもささるこの二つは

はひの席ささるまもささるまもささる

ふーのまも 〇不死間とさるいへるまもささる

かたも^レ常^ニ起^ル 琴^ノ今^ノ世^ノの^レ板

かたの^レ足^ノミ^ノか^レし^ノと^レど
これとつが^レか^レき^ノミ^ノかん
つ^ノの^レく^ノか^レず^ノと^レん^ノと
これとさ^レう^ノれ^ノひ^ノえ

又云

淨^ノ老^ノの^レい^ノけ^ノミ^ノか^レと
と^レど^レこれとつ^ノべ^ノう^ノき^ノひ
あ^ノん^ノの^レく^ノか^レず^ノと^レん^ノと
と^レど^レこれとさ^レう^ノれ^ノひ^ノえ

ふーのまな

不老不死国事ハ

詳^ニ和^ニ莊^ニ兵^ニ衛^ニ也

三才圖會^ニ曰

不死国

人色黒^ニ而^レ不^レ死^ニ樹^ノ有^ル

食^ノ之^ノ壽^ニ泉^ノ有^ル飲^ニ

之^ノ不^レ老^ニ

く^ノさ^ノあ^ノく^ノね^ノた^ノ何^ノの^レも^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ
と^ノち^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノと^ノん^ノの^レあ^ノひ^ノと^ノあ^ノつ
あ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

何^ノの^レあ^ノひ^ノと^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

け^ノせ^ノあ^ノれ^ノた^ノと^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

あ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

あ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ^ノあ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

あ^ノぶ^ノら^ノあ^ノつ

「あてはふとどくー
こゝとや」

矢根五郎サリふ 二日

こいーとぬぢひむどうさ
ふんふのまろふととん
どろくふてはひひハ
下巻

ヲランダ本州

DO^ドDO^ド
N^子U^ウ
A^アS^ス
二日

ア^アワ^ワノ^ノモ^モチ^チモ^モ
IAIA ZOBAKIRI
ZOOMEN KORITAI
NA

ヒダリヨリヨムベシ

異聞集 二日

呂^ロ翁^ウ房^フ生^シ取^ク一^一枕^シ授^ク之^シ中^中略^略

寤^サ夢^メ而^ユ黄^ア梁^ハ未^ハ熟^ニ又^ニ見^ミ枕^中記^記

謡曲耶那 二日

さそけんのまゝる粟飯の下巻

又考^ニ画^ニ双^ニ紙^ニ金^ニ々^ニ生^ニ生^ニ榮^ニ花^ニ夢^ニ一^ニ侍^ルカ

又二^セ説^ツ水^ニの泡^ハでい世^ニとつらんうらと

引^キ去^リあり又^ニくん^ニう^ニふ^ニさ^ニい^ニと^ニ

維摩經^ニ方便品^ニ曰^ク

是^レ身^ニ如^シ泡^ニ不^レ得^ク久^ク立^ツ云^フミ

素性法師 そせいほうし

素盞烏尊 そさのこみこと

神社考

素々法都 そそほうと

道徳者

素傳 そでん

東野刈

千葉氏

クワンケス

神田玉池佳

素外 そがい

谷氏 俳人

一陽井ト号ス

素性

今んと

周易
三 坤卦 大言 三

乾 爲 天 坤 爲 地

以 雄 音 謂 之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

之 乾 以 牝 音 謂 之 坤

今んとひーそくにふつそろ
ありあきのつそとすちあるうね

けあいのそは脈ちうの午の日ま玉すい

あひすあでーしちのあひ

今んとひー今んとひーハアうそろ

ぬのあひるあであひる

はうりあひるあひるのあひるの男と葉と

ういしあひるあひるあひるあひるあひる

あひるあひるあひるあひるあひるあひる

あひるあひるあひるあひるあひるあひる

けりあけのつきた

観無量壽經ニ

テシケニ
若見此光明皆
得休息

○ありありのとありありの
光なりとて二人の男の
ちあへりてやうくさう
さうとてさうとてさう
とてさう

証曲叔名

世々人のかへり有み

とありあけのつきた
おと目あてよめてさう

すちやうふの二人の男の
うかぬさうさうとて
すちやうさうさうとて
始はさう

三條右大臣さんじょううしきだん

三條小鍛冶宗述さんじょうこくぢむねのり 刀工

三條右衛門さんじょうゑもん 熊坂が手下

三條勘太郎さんじょうかんたろう 哥舞妓娘形
京下リ

三條小六さんじょうこく 曲マリニ各アリ
マリノ小六共云

三條右大臣

名師一也

あり平のふ

こゝろ

ふまのちを、すま入の
たれ、のち、和今と
院とすあり

1-2-3-4-5-6-7-8-9-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100-101-102-103-104-105-106-107-108-109-110-111-112-113-114-115-116-117-118-119-120-121-122-123-124-125-126-127-128-129-130-131-132-133-134-135-136-137-138-139-140-141-142-143-144-145-146-147-148-149-150-151-152-153-154-155-156-157-158-159-160-161-162-163-164-165-166-167-168-169-170-171-172-173-174-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-193-194-195-196-197-198-199-200-201-202-203-204-205-206-207-208-209-210-211-212-213-214-215-216-217-218-219-220-221-222-223-224-225-226-227-228-229-230-231-232-233-234-235-236-237-238-239-240-241-242-243-244-245-246-247-248-249-250-251-252-253-254-255-256-257-258-259-260-261-262-263-264-265-266-267-268-269-270-271-272-273-274-275-276-277-278-279-280-281-282-283-284-285-286-287-288-289-290-291-292-293-294-295-296-297-298-299-300-301-302-303-304-305-306-307-308-309-310-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-570-571-572-573-574-575-576-577-578-579-580-581-582-583-584-585-586-587-588-589-590-591-592-593-594-595-596-597-598-599-600-601-602-603-604-605-606-607-608-609-610-611-612-613-614-615-616-617-618-619-620-621-622-623-624-625-626-627-628-629-630-631-632-633-634-635-636-637-638-639-640-641-642-643-644-645-646-647-648-649-650-651-652-653-654-655-656-657-658-659-660-661-662-663-664-665-666-667-668-669-670-671-672-673-674-675-676-677-678-679-680-681-682-683-684-685-686-687-688-689-690-691-692-693-694-695-696-697-698-699-700-701-702-703-704-705-706-707-708-709-710-711-712-713-714-715-716-717-718-719-720-721-722-723-724-725-726-727-728-729-730-731-732-733-734-735-736-737-738-739-740-741-742-743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000-1001-1002-1003-1004-1005-1006-1007-1008-1009-1010-1011-1012-1013-1014-1015-1016-1017-1018-1019-1020-1021-1022-1023-1024-1025-1026-1027-1028-1029-1030-1031-1032-1033-1034-1035-1036-1037-1038-1039-1040-1

人子を以てするよりもなり

名ぬいのおもひに4九まであふのふ

よめ入せしむとある所へ

名^なみ^めーお^おろ^ろ○名^なぬ^ぬーの^のお^おを^をぞ^ぞと

母とぬと又音相通

あふさろや○きふの、玉大坂屋とふ商人

家入一子

ま乃〇うん早九でもまぶさるよめのかい

Handwritten text (likely a signature or name) written vertically along the right margin.

さひかつり
謡曲音盛云

ふいふがれやちてりとの
あらがとふりまらり

人あふれて

言やむといふ 曰

人あふりれせり
かさは今ハワグミまか
くこふとらり

くろよーもろか

世説問答 曰

寒氣ふくく
うてわておとあ
よて来月といふ

さねくろ○さねりのねがふかづか

づらのやうは白髪さくらわづで除

ーと

人あふりれて○けおそくつてふふのよう

ねりのやうか女房をもちてりてあ

でもさう内いさこの人さどあぢうれで

あらんとさのどくろりて

くろよーもろか○さうハ八月下旬あれど

あふのいんさくあふあ入てくる夜も

まがかりーえよんて来夜ま我とよ

めり

本朝俗唱_テ曰

三十振袖四十嶋田_{ミタダ}

和漢朗詠集

白樂天_ガ詩曰

昔_{ムカハタリ}為_{ケイ}京洛聲花客_{ノハヤカナルカク}

はふやもむうーハ
あのみかろのなやとり
まておまやらくとやうー
むてあありーぐとさう
うういの油あり
中むりゑんその
むてあとらうまそと
ひふてのまやうーも
はふてとらうとさそ
ううあうー

一説は人なごらふ
 ことなれて六あさく
 すがでりくとさふま
 やよひのころありが
 ことりてのそとに
 へつてひざとひい
 より世の人まゐのつら
 ことひまうかよりて
 失つともさふまふ
 とつひととととと
 もは人らのうらさ
 むさ

春道はるみち列は樹き

竹本

春太夫

正傳しやうでんフニ元祖

春はる富とみ士し正傳しやうでん

春はる信のぶ
鈴樹氏
浮世繪師

春道はるみち列は樹き

山からぬきさのおけけるきくくみい
流れもたへぬりくちあうたり

東武平川のあきくひんりのちちあうり使すち

ちあうりちあうりちあうりちあうりちあうり

ちあうりちあうりちあうりちあうりちあうり

ちあうりちあうりちあうりちあうりちあうり

ちあうりちあうりちあうりちあうりちあうり

山わたりよ。平川よ。海よのやうと海例と

山よのうと山例と山よのうと山例と

山よのうと山例と

わせのうけい。ちあうりちあうりちあうり

うせのうけい

能名手本忠臣藏

七段目二日

ななてしよにちあうりちあうりちあうり

江戸名所往來 二日

不川浦に往來
船出のく大橋

ふくも

竹屋全米札 二日

定

一 御觸 船乗る魚

一 切貨物 取中

ア多食

一 御後附 取中

一 御前 取中

一 御取 取中

一 御取 八ヶ月限り

お流 二ヶ月

仲同行事
月日 在判

五明樓墨河文庫

谷扇集 三ヶ月

一 為さふれ 三ヶ月

とくけつとせんといふかうと

のやふり

あうらこい。いふうふういふういふう

あうらこい。いふういふういふう

あうらこい。いふういふういふう

あうらこい。いふういふういふう

あうらこい。いふういふういふう

あうらこい。いふういふういふう

「あへぬも」

めりやまて四の袖

つらとわつひんふ
したとちんふ
あつとちんふ
やつとちんふ

「こりふんり」

「諸曲」
追成寺

しらぬの解うけ
しらぬ

史記

仲尼弟子列傳曰

穆牛之子騂且角雖欲勿
用山川其舍諸

○孔子曰川山側ニ大木戸ノ牛ヲ
見テ曰フ語ナリ

忠親

あかみ序

山がはるまでいであてかく
世がわくまであり
○平川のあかみふあけそめと云

一説

哥舞教惣執頭

慶子

中村富十郎

弘慶子
セノ人

辨慶
義經臣

運慶
佛工

惠慶

未詳

惠慶法師

惠美須屋八郎左衛門

尾張町

惠美押勝

道鏡ト
全時ヲ

惠心僧都

名源信

惠慶法師

十載和詩集

糸のめのとのあ

むうーミーねのこまき
それみくらむくら
のささきしてけるうみ

むうーミーとむうーは
あふりてさとのふみ
松のと松安やの膝山
とのつてうつくしい女
信さち今うけもみく
こまき水が枝とまて
もふうーむりつ冬の
みまむらのちねささ
てたるうみむらのゆ
ぬもふ人にもあふ
さささささのむが
てさるとあふささ

本所七目

糸屋河房情下三目

目カツブレタラナヲノ

八重むくらまけあふあふのふりー
人ささささのふりー

中むうのささささのふりー

やうらにささささささささささささささ
えぬとむくらからねえ代まねえや三代
目の漱山とささささささささささささ
みさささ

八重むくら○とね川のささささささささ

ちとあふのささささささささささささ
りんとりちのささささささささささささ
ささささささささささささささささ

あけれるささの○ささささささささささ

事アイソノツキルハ
ジヤウノモノ云々

本草綱目

ウエロモナ

土豹

土中住虫形

似レタ鼠ニ

俗ニムグラ
モチト云モノ

一氣

茶道大全
二四

茶事チャシハ墨スミの法ホウ

るを好むやうす

氣の移るを如

三才

ゑづてはるゐるあり

さびーさびー 結氣さびーさびー ちり 漱山の女さびーさびー のすけり

あつたところをさびー来して位

居のりよきと云ふは、ぐりぐりゐるを

155000

人々を救ふの爲め

もかんの今をうのくやふふとふ

きりぎりす

1917年5月20日

Handwritten signature: *Wm. H. H. H. H.*

わきぐさであるよじろにまのび生い

一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

謡曲景清ニ曰

こまをいふはくどと
くどとくどと盲目ど
くどとくどと

老子經ニ曰

五色令人目
盲

盲

左傳卷六

目不別五色

之章爲昧

城川嵯峨五臺山清涼教寺藏版

梅檀瑞像記二十五牒目ニ曰

文明九年の比々あるの所先破抜一ル
鳥山の何某と云ふれなる細工の者あり
ルふや介て傳造一なる

これに鳥山う先祖え

貴家御文庫

二糸家口傳秘書ニ曰

一繪と云ふる經冊老松のり

月日の下流いたとてあ次うても
筆を食うふきておけさぬ松すす
隙をのるの目と云けさぬやうふ
あふふふふ鳥をえん人いもの
眼とさふつふてあふふありは
りるふふやに傳あぐべー云ふ

今う拂子これハはちふより
以来の書はあぐべー

源重之

畠山左司

重忠

善茶琴

景清全時

重井

御乳人

重太夫
三三祖

重太夫

重政

字勝助
爲勝家

重政

北尾

重山

四目屋抱
遊女

豐重

富本門第
田所町住

重之

風邪論

病源論

風邪寒熱毒

氣

肝厥也

風邪寒熱毒

傷寒論

發陰者七日

發陽者六日

又詳 傷寒振出能書

醫聖療手引

風邪六七日不

小便頭痛者

風邪寒熱毒の氣

肝厥也

風邪寒熱毒

傷寒論

發陰者七日

發陽者六日

又詳 傷寒振出能書

醫聖療手引

風邪六七日不

小便頭痛者

歩治 拾遺 日 といふ ところ あり

承氣湯トカラアツク與ユ

大成 論二日

風邪万病爲フタヘハマンビヤツクナリ
長

山石の波の

文選 海賦二日

飛沫起濤トシ アハツ シツナミヲ

波ハアキ事

歌音カオン波ハ

波の下器ハノシモノ

大せかりてよふくまふまふのけ

おのれのこゝろひて○なやみふかき

かのさうりさうりふ人ふかしのれ

とのこゝろふふふ

ののの○かの若さうてのののふふ

のよふふふふふ

たのふふふふ○のふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふ

ふふふてふふふふふ

漢武敗邳王進馬肝石帝

以此作テ硯ル

はまふふふふ

おのれ

小野治とあやうに日

巳巳巳

そとそとそとあやうに

「そとそとそとあやうに」
おのれへもあやうに
うらやまあやうに

のこ

玉々編

数金

ウカッ
穿レ木
器也

あやうに筆

硯のうらやまあやうに
あやうにあやうに
うらやまあやうに
うらやまあやうに
うらやまあやうに

藤原義孝ふじはらぎこう

朝夷名三郎義秀あさひなみさぶらうぎしゅう

新田小太郎義峯しんたなかおたろうぎほう

大星由良介義雄おほほしよりあき介ぎゆう

義亮ぎりやう 本田義光ほんだぎこう
義松ぎしょう 天川屋長男てんがわやちやうなん

義孝ぎこう

「いのちさく」

伊之助 はすけとあつそ
はせ松とあつそ

新四ツミ

仇競恋浮橋ニ曰

とととめけおあきこ
ぶやまふのびてひより
ぬの女が

君うゑあねーかつさうーいのちさく
あうくもかあとおゆひひろさうね

むうとふああり伊勢の市原のつまと
あうーかつさうふうぬさうひて伊勢
とふあちのこふさつてはうれちるがその様
か目ある男のあふいあふとむすひと
とふあふあふ

君かあめー人いあふよりたふんとくへたふ

さういふ目ありとも

とわうさうーあめちさく。はさうに市原

長くもふと

倭人牛本忠臣巻

七段目二日

女のかみのあやもさう
りてくうとらさ

あやもさう秋の夜

長くもふとくうひて
竹のいのちもいまの
うへ

かうまれーワッ男ねをひとうあうまの
伊えが乳ちうめてふふふふうとまふ
ーやうあまふふふふふふふふふふふ女
房まからうとふふふ

ふぐくもわふとあひらうわのふふ

とふふとふの男のあふあふふふふ

ワッやうにうあふふふふふふふ

とあひらふふふふふふふ又倭名とあ

たり

唐李克用一目眇取号ス

独眼龍

山海經 三曰

一目^{イチモク}國^{コク}北^キ海^{カイ}之^ノ在^{アリ}東^ミ
人^{ミナ}皆^ナ一^{イチ}眼^{ガン}

白鬼唄

二日

はる二がめとてーも
さんさよとてーも
ふんふん

あつちのうへへーあつちのうへへ
くもあつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ
あつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ
あつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ

あつちのうへへーあつちのうへへ

唐詩選 平蕃曲其三

空留一片石

萬古在燕山

○今ニシテザリヤリニハカケン
コ石ヲトラレテ・シマウタ・
コトシヤ・ンレテモ・ハニコノ・
石ハ山ノゴトクアルヲ・ミテモ
ウラメシイ

ちぬるをいふ

九人ニありて

めりててのなを

さしハ赤に寄け月を

とふけ百人首

あちのちのよりゆきの

よみの急の七九ニ

あやゆき

とりかへとれで赤をいふ

そのやを九もかれとよむ

ふー○二衆とげアヤしてふいとよみ

とくく二衆すけてあまふとよみ

蓼々螺子あやふ

よみのつとらふ○どふててもあやふ

くつきぬけさうふくとあやふ

いあけとあふりよふハ弱あり

唐人寝語ト曰

賭錢輸得清光ト

深川吟ト哥ト

「お月さぬさん」

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

めくららさきで

哥舞妓大帳ニ曰

お舞妓さん人の心をくすぐるのうたの

まよひつけのあふりくつゝのうたやうき

まよひ下座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

まよひ上座の方すこのうたやうき

左京大夫道雅

道端賣餅家太郎兵衛殿

道長かみ 御堂
関白

道實

天神サマノ
ヒヤウトク

道成みちなり
道成寺ミチナリ

道無みちな

昇ヶサミノワ
右者コヲクヅ
ヌレバキニシレ
ヤス

女子
道汗ミチアせ
松葉屋新造

○ミチニヲホドナク
コノコロハ袖ヲトメヤシタ

道雅

あひしほりしと

甲舎一休 あ

あひしほりしとあひしほりしと
あひしほりしとあひしほりしと
あひしほりしとあひしほりしと

親家上人御文章

ナニノヤウモナク
唯一心一回ニ南モト
トナフルバカリヲ

聖子教

一日ニ学三百

六十字

ひしほりしとあひしほりしと
あひしほりしとあひしほりしと
あひしほりしとあひしほりしと

いまいたるあひしほりしと

ひしほりしとあひしほりしと

これいふあひしほりしと

いまい○今般の時と

ひしほりしとあひしほりしと

あひしほりしとあひしほりしと

あひし

あひしほりしとあひしほりしと

あひしほりしと

ひしほりしとあひしほりしと

あひしほりしとあひしほりしと

あそひをなつては
ふりかへりては
あそび人となりて
ていふことあり
るあそびなり
ていふことあり

初登山之日

親閑老來後
悔予可也

「ふふふ」

中臣太後

申事モウズコト乃由ノヨリ於ヲ

これより知るべし

Signature

[Handwritten signature]

権中納言定頼

定之進人 後樂

見「源分半網」

定九郎 ハ介九太夫男

為勘平カ橋元ス

定光 ミウ 頼光ノ臣

又作「復光」

定頼

朝やけうちの川さうきん
あうれきるせのわらわ

船やらけ

平都婆裏梵文

中天 アサ

中天 ヨシ

夜

ムカシク天竺ニモ
アツタトサ

早師用

氣形門

船

日本記

船

一名

イサゴイ

イサ

見エ 順和名

ま砥なうがふり川の古ゆきとよめり

船ほらけ ○ま砥なうがふきとよめり

子ねまふり川のか人綴とらふゆきとよめり

ぼらけハ綴とらふゆきとよめり

とふーとふーとふー

うらの川とらふ ○はふきのとらふ男はてぢ

ぐねと付て居るうらふとらふとらふとらふ

川へびさりとらふとらふとらふのおまや

のふーとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

とらふ

たえくすのちもふとらふとらふとらふとらふ

ひふとらふ

金の錢ナリ

風俗通ニ曰

錢號為孔方

兄云如兄也

あつる小

神錢論ニ曰

錢曰孔方无窮異而

飛无足而走

○は清はあてい

錢足海果あ冬さう

「くうふざなと

お足くふむ

はゆへう

何れこれワる○はさるぎにあらをくひー

わまうのせんをりくそくろれをくひてあ

さき男ゆへ人とたのこあうくとりあげこれ

でふぶあられーといひる

ぞろ○せどのとくすまらち錢のそやとて

にトろふ○それなをそけてあらひーあら

なのおんどろにあらありーみやと

風俗大撰

許六鐙倉賦ニ曰

片終川よハ字も教まのけとろー滑川ハ

まを砥が強とさくがき

太平記 青砥 藤網 滑川 隨 十錢

鎌倉武鑑ニ曰

青砥左衛門尉藤綱

モシヒガ上テ二万石
ナ銭西クボテ百五十

鎗サ、ナツリカハ

フサハ、木ノ
合テ、木ノ字

時献上 韜一本

纏
シシ物

ぢんろく記

才十に綴るるういひのり

▲たえバ後主のうらそほらと六石
三十九又三十九ひ川、十又と一た
あといろやをくくひふ付はあまや
ふ東代と十二又ととき孫とさかたせ
と田力日やうとふ十又つわきさのり
とねろく、代の三又又とさる付ハ
といろく、さあといろく、さあといろく
こころふとあうねてさる

延喜式 卷之五

五位食法ニ曰

東襲 隱岐襲 烏賊各一兩

鮓一兩三分

○いしぐんうらふんが綴二つが
はる二年あふはまふひのりぬ

祐子内親王家紀伊

然阿上人

紀主禪師

紀文

紀伊国屋文左衛門。事ハ
見吉原大全ニ奈良屋茂左衛門ト全時

紀上太郎

浄瑠璃作者
見白石齋跡ニ

紀名虎

見文徳實録ニ

紀伊國屋

沢村宗十郎
訥子

紀伊

伊勢物語

かろくしてぬきとて
いそぐさるるさるる
わさ川とりふ川とて
いそぐれ

かつら川のなれも
はたぐひ

ぬれもよそとれ

元信百鬼夜行三曰

濡女 〔おまけのえ
のうら〕

うつれぬ後 かつらの巻曰

れとくうつら川のけり
わさふとめちひひぬる

は川ちり

源氏物語 松風巻三曰

かつらのみん

かえん長たんと
わさむらのも

音はさくさるれ流のいへ波

わけーや、袖乃ぬれもーとと袖

けあかえん長たつのねえとよめり

ちめさくー○ちめさくさるるさるるさるるさるる

どとさくさるるさるるさるるさるるさるるさるる

さーれ流の○さくさるるさるるさるるさるるさるる

から字をさくさるるさるるさるるさるるさるる

めさくさるる

いへ波は○かえん長たつのさくさるるさるるさるる

なめ流川の仇波とさくさるる

わけーや、袖の○かえんさくさるるさるるさるるさるる

松本幸四郎ハ琴高仙人の
生れかゝりて云々就有

列仙傳ニ曰

琴高善鼓琴后得
仙乗赤鯉來人間

○錦考善鼓琴后得給金乗

赤鯉至京都事ハ詳也
三津評判記

あまをぬぐはせぬの
うらたのけりありト云

漢書註

鴻聲肝傳

之也

○漢ニハ通事ヲ

大鴻肝ト号ス

△今スハ千文字ヲ
アラタメゴウロヲ
サカシマニテ
路考ト云

これらよりかき
せらあふ
もてうへへ

源後頼朝臣

後陰 事ハ詳ニ
うははあはせ

後頼

一説此人百人一首ノウチニツイツチ
筆音ニヘ名トス

うむさる人さるる深乃山おろー
はさりかれといのらねりの成

やまとのふよりうさこのさわりまひより

風土記ニ云

泊瀬山和州

在城上郡

け女の名より
山の名とす

と

神と云

龍田ノ社ナレシ

女ありて人のむすめなりと云ふに生

いころあつねとて母とてのつてと

めてかぬつた太一やうけのたぐねと

とねふのかまふとてうけ女といふて

ひふふまねとてりちるんまんとの

母一はめんと三月のちわつとて

神ノ方のうけのりのかち母のうと

ととちのうけのりのかち母のうと

うわつとて〇とてにけれ一

娘のうけとてけのりのかち母のうと

ととちのうけのりのかち母のうと

人と〇とてのうけのりのかち母のうと

父享自笑作
世間娘氣質云

けむさうてけさ
生れつきて下略
儀同三司母

泊瀬記行

けささうさうさう
してけさうさうて
ふがも

「いのちをせと
さげさうて
ふ

女今川 三白

人とめりけり日月のうととを
てらけりけりんをめりけり
その人なまをひてめりけり
ださうさうさう

「さうさうさうさう
女といきめりけり
さうさう

草乃紙

馬鹿文盲圖彙

中之巻
書入三白

せうさうのさうさうさう
さうさうさう
さうさうさう
「さうさうさう
さうさうさう

崇德院

人王八十一代帝

安德天皇

德宗權現 相州鎌倉

大威德明王

聖德太子 厩戸皇子
未來記作者

大龍王九代後胤

德又迦龍王

德願寺 行德

中家德 一寸德兵衛

素屋

玄德 蜀ノ
貞德 詔
柁德 哥
妓

三國志

劉備 松永ト云

萬葉集

弓削皇子御製歌

芳野河遊瀨

之早見須臾

毛不通事死

有巨勢濃香

毛

一川所寄のんい

勝川が早見と

あふことまづくも

とあふことふーと

うらふて

川がさやぐありたり

ゆふみせりく勝川の○岩とよもたき川が

さやぐとて雫見とせいでよばせすやうほ

くつひとよつていさなせううたき川たり

とれても未まはるんとうり思ふ○たき川の

さやせうれうりやうてふせうれうりーても

雫えがゆといとれなふたとあうこれをも

中の丁の末のうらなやでありとらえん

とあふことさうとよあり

長明

方丈記

たき川のふくれいさうん

いそふもりのさやぐ

枕草紙

くさくさあまの
さきくさくさあまの
さきくさくさあまの

「みづ川をさくさく
さきくさくさあまの
さきくさくさあまの」

宗祇秘中抄ニ云

山石枕「秋あり
七々の枕也」

「さるはたさ川は
さくさくさあまの
さきくさくさあまの」

「さるはたさ川は
さくさくさあまの
さきくさくさあまの」

半太夫
黒小袖 たり

めもこちあまのあまの
さきくさくさあまの
さきくさくさあまの

「さるはたさ川は
さくさくさあまの
さきくさくさあまの」

「さるはたさ川は
さくさくさあまの
さきくさくさあまの」

○瀬落速見○瀧川

中臣太極

落瀧・速川・瀬・空・湊

姓氏録ニ云

瀬尾 橘氏 栄花物語 ちつ花の巻ニ曰

隼人 司ト云官ナリ 是よりの名

見 前漢書

馬本

歌打古郷錦

瀬尾 助左衛門 好色のつみあり

け人 隼人 一どくあり

參議雅經

經若丸

文字經

常盤津門外

清經

鳥居氏
淳世画工

祐經

工藤
左衛門尉

雅經

みよきつふの秋風はよきて
ゆきさくらむく夜うつさかり

さかちつりのほろさきうつろそかれ

こより 秋の

助六 柳 菅 櫻

まふとここここここ
ここここここここ
ここここここここ

山のめき風

新吉原 細見記

山口屋 〇ナ

秋風

ちんちんの

なるみとよめる

こより 秋の 〇吉原の橋のこよりとよめる

秋のこよりとよめる

山 秋風 〇角丁の山口やめき風

かたがめちんちん

さよめて。かたがめちんちん秋風とちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちん

さうありて

後波同吉序

ふきくそくもい
ふきくそくもい
そくや

さうもさうあり

唐詩選 李白

萬戸擣衣聲

秋風吹不盡

女郎名

松林集 題松下擣衣

略 一の嵐は衣

川とよき山は秋風と

衣うつあり。あれがうつあふらうてあるの

とよくふくそくもいふきくそくもい

ふきくそくもいふきくそくもい

ありそふとふあり

使然草 ニ云

かうねりのあう

川柳炙

柳様 五編二日

これも又とあふらうてあるの

能諧

とよき山は秋風と

川とよき山は秋風と

本朝武家評林 卷三十六

秋田城介魚女物語

文吉日

行未ハ秋風ノ

一夜ニ替ル人

心見弁ラレニハ

一定也左アフニ

於テハ悔共何

益カアラニ

初衣抄終

江次郎 十四卷三

あり平きあさるハ在中ねまて 中畧
かきおせしれいさのちうととや
さんふあつのがやとておまひつて下畧

あり平きあさるハ在中ねまて 中畧
かきおせしれいさのちうととや
さんふあつのがやとておまひつて下畧

琵琶行

粧成毎被秋娘妬

秋風ガコトヲ云

秋風ハ人びやきりやまで
わづこころは

かけろり日記

上

その中におちるゝあかあか後のもゝあか
とこれによふあかゝるゝとてとてとてあり

とてとて秋風ガカリのあか
とてとてとて

京極黃門殿小倉山莊色紙
百人一首和歌秘中抄一帖
青樓妓女駒治雖傳之堅可
禁外見者也

茶飯吉奈良京橋

山東源京傳 在判

天明七歲
未正月
初店日

跋
 書ハ萩江氏弱治ガ文庫アリト
 予ヒモ亦求メテそのあましく油町のほろ
 阿蘇師のころふたふのつらふれや
 人の口にもいふくもあ様子多きもあ
 いのちをふぐりて。いふれよりいふれ
 恒々頭のノ一選集とわハ。跡著衣抄
 と題し〜後編と云

京傳門子月池

朱翁鶏告誌

也

百人こゝろん狂歌きやうか宿屋飯盛しゆくゐはんぎやう撰 一首 古今ここん狂歌きやうか袋ふくろ百人ひゃくにんの像ざう并な詠ぎ 全一冊	五人ごにん東都とうと狂歌きやうか文庫ぶんく並な附つ名な家け自じ詠ぎ 一首 東都とうと狂歌きやうか文庫ぶんく並な附つ名な家け自じ詠ぎ 全一冊	四方しやうのわ 四方山人しやうさんじんの狂きやう歌かねと集しふ 全二冊	狂歌きやうか才藏集さいざうしふ 四方山人しやうさんじん撰 全二冊	通詩つうし選七言古せんしちげんこ 四方先生しやうせんせい著 中本全一冊	同 諺解げんかい 同作 中本全一冊	同 笑知しやうち 同作 中本全一冊
狂歌きやうか鰐わい 鹿都部しかとべ眞顔まゐら撰 中本全一冊	不老ふらう仙家せんけ長壽ちやうじゆ甚し 四方山人しやうさんじん集 全五冊	狂歌きやうか十才子しやうさいし名月集めいげつしふ 同社中詩文 全一冊	狂歌きやうか故混馬鹿集ここんばかしふ 朱樂しゆらく撰 全二冊	狂歌きやうか瀆とくののささゆゆ 狂歌きやうかののささゆゆ 小本全一冊	狂歌きやうか新玉集しんぎよしふ 四方山人しやうさんじん撰 全一冊	狂歌きやうか百鬼夜狂ひやくきやまきやう 四方山人しやうさんじん出席 全一冊

同	同	同	同	同	同	繪本武者鞋
江戸爵	吾妻挾	八十宇治川	百千鳥	數奇屋金	詞乃花	北尾重政画 大本全二冊
喜多川哥麿画 江戸名不 全三冊	同筆 江戸名不 全三冊	同筆 武者餘 全三冊	北尾重政画 全三冊	同筆 武者景色等 全二冊	喜多川哥麿画 尚世風俗画 全二冊	
娼妃地理記	馬鹿講釈	百人一首	曆便覽	狂歌 福人双六	狂歌 立春抄	狂歌 評判記
喜三二作 又丁冊とはかの風俗 名不詳 小本全一冊	同作 百人一首の歌と く 中本全一冊	山東京傳作 小本全一冊	全一冊	四方山人撰 全一冊	全一冊	名不詳 又校の役割の趣向 全三冊

畫圖勢勇談鳥山石燕筆

全三冊

氣のふとろ

同作
萬世のわくし

全一冊

吉原新美合目筆鏡北尾政廣圖

全一冊

座奥腰筋三略卷一枚摺

烟花清談駿守傳作

全五冊

小紋新法山東京傳作

挿花手毎の清水投合のり

全一冊

客衆肝照子同作

餅都洒美撰吉原のり

中本全一冊

遊君推言柳巷化言わかくのふあん

全一冊

契手管智恵鏡こんてんてん

全一冊

通神三教色唐末三和作

全一冊

狂彙軌本記おきききん

全一冊

書肆萬屋重三郎江戸本町筋北八町目通油町